

# 令和8年度 藤野南小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26025

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケートの「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。」では9割近くの児童が肯定的な回答をしている。</p> <p>◇「端末を使うことで、勉強がおもしろい、楽しいと思うことがある。」「端末を活用することで生活をもっと豊かにすることができると思う。」が9割近くの肯定的回答となっている。</p>
	<p>◇「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」「自分の意見を進んで発言しようとしている。」の回答が低くなっている。</p> <p>◇標準学力検査の学校全体の教科総合偏差値が札幌市平均よりも低い現状が見られ、基礎基本の定着に課題がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇「人の役に立ててうれしいと感じることがある。」「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の回答が9割を超えている。</p> <p>◇他の項目に比べると、「自分が必要とされていると感じる。」の割合が8割を下回って低い傾向にある。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 「自分から」進んで学びに取り組むこと

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) つなぐ力の育成 「自己や他者を理解し、よりよい関係を築く力」「学んだことを他の学習や生活に活かす力」これらを育成することで、児童が安心感や所属感をもちながら「自分から」学び、集団の中で自立していく姿を目指す。</p> <p>(2) 学習デザイン力の向上 「教師が子どもたちに働きかける専門的なスキル」として、「必然性のある課題設定」「対話を生み出す発問」「思考を可視化する板書や掲示」「安心して表現できる学習環境の構築」などを通して、児童が「自分から」学ぶ授業を実現する。</p>	<p>①集団の中で自立することのできる児童を学校全体でつながりをもって育ていくために、MLA（マルチレベルアプローチ）に取り組む。</p> <p>②「SEL」（自己理解・他者理解の基本となる事項の理解とトレーニングを行い人間関係の基礎となる力）を年間通じて行い、児童が学習面だけでなく、行動面の基盤ともなる感情面の成長を促し、「自分から」つなぐ力を育み、集団の中で自立した姿となるようにしていく。</p> <p>③児童が主体となり、「自分たちから」学級内や学校内の課題解決に向かえるような学級会や児童会を実施し、自主的な活動の充実を図る。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>		
<p>◇上記の成果からも、ICT の効果的な活用が学習のみならず、日々の生活も充実させていくことを子どもたちは実感している。様々なツールの中から適切なものを「自分から」選択できるような学習環境・ICT活用場を整備・設定していく。</p> <p>◇Google Form などを用いて一人一人の声を拾い上げたり、パートナー校との連携のためにオンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声をつなげたりする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

